

# 燕物産株式会社

コンペテーマ  
「今」の時代の  
カトラリーデザイン

素材 金属全般  
商品ジャンル カトラリー

①大正時代に製造された「月桂樹」/②(左から)オーソドックスでヨーロッパの永久定番「ニューボート」、ハンドルを細く厚く贅沢に仕上げた「ヴォワージュ」、細く・長く・柔らかくをイメージしたシンプルモダン「ブランチ」、家族全員が同じ食器で食事を楽しめるようデザインされた「ユニバーサルデザイン」/③日本最古のデザイン「月桂樹」/④工場の様子

## 企業概要

燕物産株式会社  
代表取締役 捧 和雄  
〒959-1276  
新潟県燕市小池3501番地  
TEL 0256-63-6511

創業 宝暦元年(1751年)  
(設立昭和19年1月)  
資本金 5,000万円  
社員数 50人  
主要事業 金属洋食器 製造  
及び販売



# 燕物産株式会社

## コンペテーマ：「『今』の時代のカトラリーデザイン」

素材 金属全般  
商品ジャンル カトラリー

燕物産株式会社  
ホームページ



◇期待すること、その他アドバイス

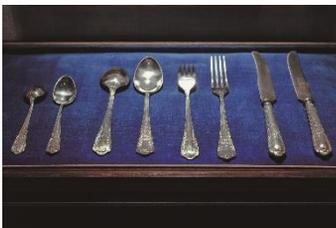
カトラリーの流行はドイツフランクフルトで開催される国際見本市「アンビエンテ」からひろまっていくと言われており、そのデザインはファッションの流行とも結びつきが深いものです。しかし、近年は流行といえるカトラリーデザインが出てきていません。そのデザインがどんなシーンを生み出すのかを想像し、現代のカトラリーというものをデザインしていただきたいと思います。カトラリーのセットでも、何かの専用スプーンでも構いません。デザイナーとして一番作りたい、「今」のデザインを追求した作品を期待しています。

## 日本最初のカトラリー専門メーカー

燕市は、スプーンやフォークなどのカトラリー国内生産シェア90%以上を占め、「洋食器のまち」として知られている。

燕物産は、同市内で最も古い 100年以上の深い歴史を持つ日本最初のカトラリー専門メーカーであり、長年、「永く愛されるカトラリー」を作ることを目指してきた。

代表製品である「月桂樹」は、大正時代に初めて日本製カトラリーとして発売され、100年たった現在でも製造、販売が続けられている、日本最古のデザインのカトラリーとなっている。



大正時代に製造された月桂樹。TBSドラマ「天皇の料理人」にも使用された。



材料の切断から始まり、プレスから研磨まで、数多くの工程が1本1本人の手仕事で行われる。



手掛ける製品は、100円から1万円のものまで幅広く、どんなカトラリーでも製造してきた。輸出の全盛期、製品の約8割を欧米等に輸出し、海外のOEMデザイン登録商品は、1,400種にも上った。

メインは高級洋白銀食器、18-8ステンレス製品のカトラリーで、その多くはレストランやホテルなどで使用されている。高級カトラリーの代名詞ともいえる 洋白銀食器は、純銀食器に近い使用感と光沢を持ち、鉄系の金属であるステンレスの製品が黒っぽく光るのに対し、洋白銀食器は白っぽく光るのが特徴。また、ステンレスよりも熱伝導がよく、金属臭も少ないとされている。

近年では、介護用のユニバーサルデザイン商品やハニースプーン等の特殊商品も製造している。



◀ ユニバーサルデザイン  
燕物産では家族全員が使えるカトラリーという発想で開発。軽さや握りやすさに配慮したデザインとなっている。